

## 令和 5 年度 福津市一斉防災訓練の結果について（報告）

## 1 参加率等のデータ

## (1) 必須訓練

年度	人口	世帯数	避難者数 (参加率 %)
令和 4 年度	68,475 人	29,659 世帯	7,842 人 (11.45%)
令和 5 年度	68,693 人	30,026 世帯	10,238 人 (14.90%)
比較	+238 人	+367 世帯	+2,396 人 (+3.45%)

※避難者数は令和 4 年度と比較して 30%増

※人口、世帯数は R5 年 10 月末現在

## (2) 任意訓練

## 郷づくり、自治会

年度	参加者数	前回比較 (%)
令和 4 年度	1,460 人	1,532 人 (+104.93%)
令和 5 年度	2,992 人	

※参加者数は倍増  
市、学校

年度	参加者数	前回比較 (%)
令和 4 年度	1,977 人	71 人 (+9.66%)
令和 5 年度	2,048 人	

※小中学校は、学校行事のスケジュールにより、年度により参加が左右される場合がある

## (3) 各郷づくりごとの集計

地域	勝浦	津屋崎	宮司	福間	福間南	神興	神興東	上西郷	計
必須	304 人	452 人	769 人	3,686 人	1,976 人	976 人	1,099 人	976 人	10,238 人
任意	130 人	782 人	245 人	318 人	227 人	186 人	1,001 人	103 人	2,992 人

※地域により、人口や地域性が異なるので、参加者数はあくまで、指標のひとつ

## 2 訓練を通じての感想と意見集約

### (1) 主な感想・意見など

良かった点	悪かった点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校と連携し取り組んだ地域があった</li> <li>・地域役員やチームを作って、要配慮者宅を訪問し、安否確認を実施した地域があった</li> <li>・防災意識の向上に繋がった</li> <li>・中学校の協力もあり、中学生を訓練に活用できた地域があった</li> <li>・全戸にチラシ案内し、回覧を複数回に分けるなど、周知を徹底できていた</li> <li>・訓練を繰り返し行うことにより、スムーズな避難行動がとれていた</li> <li>・役員の指示に円滑に訓練ができた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加世帯の偏り (若い世代の参加少ない、高齢者が多い)</li> <li>・訓練実施について、周知できていないことを感じた</li> <li>・自治会員でない方やマンション世帯の実施状況の把握が困難</li> <li>・マンネリ化</li> <li>・地理的条件を考えた場合の一次避難場所の再検討</li> <li>・打ち合わせ不足で中学生との連携がうまくいかなかった。</li> <li>・役員の連携がうまくいかなかった</li> </ul>

### (2) 感想・意見の集計

64 件の感想や意見をいただき、うち良かった点に関するものが 36 件、悪かった点に関するものが 19 件、その他が 9 件ありました。

意見の分類	良かった点		悪かった点		計
訓練への参加	予想より多かった	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の減</li> <li>・参加者の世代の偏り</li> <li>・参加者の高齢化</li> </ul>	4	19
防災意識向上	防災意識の向上が図れた	6	防災意識の向上が課題	4	10
訓練周知	全戸回覧・案内の実施	2	周知しきれなかった	2	4
要配慮者対策	要配慮者の安否確認を実施できた	4	要配慮者への対応の必要性を感じた	3	7
タオル掛け	防犯上、掲げたタオルをすぐに外す工夫をして実施できた	4		0	4
中学生	中学生を活用した訓練ができた	2	説明不足で中学生との連携がうまくいかなかった	3	5
点呼	組毎の目印でスムーズな集合点呼ができた	1	名簿作成の必要性を感じた	2	3
訓練内容	訓練の繰り返しにより、迅速な避難行動につながった	2	マンネリ化	1	3
合計		36		19	55

## ○主なその他の意見

- ・ 組内の日常的なつながりが重要
- ・ 小学校区を輪番で総合防災訓練の実施を検討してほしい
- ・ 弾道ミサイルに備える訓練も検討する必要がある
- ・ 津波を想定した訓練も考えたい
- ・ 発災直後は過去の震災の事例から、公助に時間がかかるので、地域で考えて共助の訓練に取り組むことが大事

## 3 まとめ

R4年度は3年ぶりに任意訓練を含め全市一斉防災訓練を完全実施しましたが、コロナ禍の感染症対策の一環で、集合型訓練を自粛した地域が多く、コロナ禍の影響は拭えきれませんでした。

R5年度は、新型コロナウイルス感染症が第5類に移行されたタイミングで、各地域で防災の衰退を懸念する機運が高まり、結果的に必須訓練、任意訓練ともに、参加者が大幅に増え、訓練内容もコロナ禍前よりも創意工夫がされ、より充実したものになりました。特に、神興東地域や上西郷地域で、郷づくりと自治会が連携し、共助の取組を強化したことが、訓練参加者数の大幅増の要因にもなりました。

課題としては、高齢者社会の到来による参加者世帯の偏りなど、地域だけでは、解決できない問題が挙げられます。R5年度は地域特性に応じた独自の取組が各地域で例年以上に実施され、地域役員やチームを組んでの要配慮者宅の安否確認や、中学生との連携等を実施し、取組を深める地域が増えました。訓練の繰り返しが、スムーズな避難行動に繋がるので、今後も継続的な取組をお願いしたいと思います。